

平成22年度

応募件数 40件 助成件数 11件

団体名	所在地	活動内容の概要
NPO法人グラウンドワーク西神楽 理事長 宮崎 幹雄	旭川市	冬期集住・二地域居住 事業化支援モデル事業 西神楽地域における人口減少、高齢化等によって生じる課題や都市と農村の連携を見据え、冬期集住や夏期滞在の取り組みを具体的に実施し、事業化に向けたモデルづくりを行う。地域情報拠点を核とした社会実験を通して当地域の土地利用状況を考慮し、新たな居住形態を踏まえた農村整備のあり方、及び農村住民の冬期集住と都市住民の夏期滞在を組み合わせた新たなコミュニティーのあり方について提案する。
NPO法人自然体験学校 代表 若林 伸一	豊浦町	豊浦町まるごと自然体験学校 少子高齢化・過疎化に直面する豊浦町を活性化するため、町・商工会等と協働して、個人やファミリーを対象とした地域資源活用型の体験メニューなどの実証実験を行い、プログラムを開発し、交流人口の増加をめざす。
黒松内町農山村資源活用地域協議会 会長 新川 幸夫	黒松内町	くろまつないフットパス魅力アップ事業 平成16年からフットパスを、民間有志のボランティアの手で進め、コース整備や維持管理、イベント開催などに取り組み、今年は、5コース目の新コースを開拓予定。今後も、多くの方々にフットパスコースを楽しんでいただき、地域資源の有効活用を図り地域経済の効果につながるよう、本町で10月に開催される日本フットパスの集いにおいて、道内外の参加者に現在のコース及び周辺を歩いてもらい、よりよい魅力あふれるコースづくりへと活かす。
森のガーデン 代表 菊川 和子	西興部村	コミュニティ花広場「RIMU 森のガーデンづくり」 森に囲まれた西興部村の中心にあるホテル森夢(RIMU)は子供から高齢者まで村民だれもが集える格好の場にも拘わらず、隣接した殺風景な荒地状態にあった。みんなが集う花の園地に変えるため、この用地に本格的に草花と花木等の植栽を行い、文字通りのコミュニティガーデン「森のガーデン」の実現に取り組み、このような活動により、人口1,170人の村に交流の場と新たなつながりのネットワークを誕生させ、また、地域を支える女性パワーの源になるようなきっかけにもする。
占冠村観光協会 会長 観音 信則	占冠村	協働共創のしづれ体感事業 マイナス34.7度、昨冬の占冠の最低気温は、日本最低気温でもある。まさに、しづれる。このしづれがあるから出来るモノがある。しづれを自然の恵みとして誇り、しづれるをコンセプトとした田舎のイベントをボランティアと地域が一緒になって創っていく暖かな事業をめざす。
特定非営利活動法人 公園ねっとわーく 代表理事 中村 佳子	札幌市	「あそび・健康・安全・ネットワーク 冬の公園活用事業」 冬の公園を活用することは、子どもから高齢者までの体力・健康・地域コミュニティーの維持につながり、また、子どもにとっては、特に「雪」の理解・智恵・知識を生活・遊びを通じて学ぶ場となる。さらに避難場所となっている公園の冬の状況を考えると、冬の雪の中での避難災害救助についても考えておく必要がある。雪国札幌において、冬の公園を活用していく為の指標となるような事業を行い、それを地域に発信していくことで、冬の公園活用についての必要性や楽しさを広める。
しらおい森林療法研究会 代表 有田 勝彦	白老町	森林資源を活用した「森と健康プロジェクト」 現代社会において、少子高齢化が進む中、本町の高齢化率も32.5%と高くなっており、また、健診結果を見ると60歳以上の約4割が生活習慣病が原因であり、その70%を高血圧が占めている。このため、森林ウォーキング等の森林の持つ癒し効果を活用した健康づくりを町内に普及し地域活性化を図る。
特定非営利活動法人 北海道ツーリズム協会 理事長 中野 一成	鹿追町	「十勝・鹿追ワーキング&ホリデー」による若者支援 十勝・鹿追町の農業で働きながら、都会での仕事、暮らしのあり方や価値観の見直し生き方を考え、田舎暮らしの中で新しい仲間との連携や人生の生き甲斐等の新たな発見を応援する活動であり、若者への支援であるとともに、農業者にとっては若い労働力の確保でもある。本来、若者は素晴らしい力を持っているはずであり、農業で働くことで一定期間生活基盤を支え、その期間中に様々な研修プログラムで自らの人生を磨き、仲間を作り、新たな価値観を身につけることを応援する取り組みである。
下川町もてなし隊育成協議会 会長 谷 一之	下川町	「ハルユタカ」を活用したご当地グルメと新商品の開発 地域資源である「ハルユタカ」とその加工品などの農産資源を活用し、地域の特色を活かしたご当地グルメの開発を行うと同時に、未利用の農産資源を活用した新たな加工品の開発を行うことで、ツアー客に対する「食のおもてなし」の充実を図り、地域の活性化につなげる。
三菱大夕張鉄道保存会 会長 奥山 道紀	夕張市	三菱大夕張鉄道 南大夕張駅ホーム補修事業 三菱大夕張鉄道旧南大夕張駅跡には石炭輸送に活躍した車両が保存され、同市の観光スポットとして賑わうが、ホーム・車両は荒廃し、さらに、夕張市が破綻したことにより、公園化計画も凍結され当会の活動により、車両の修復活動が進められているが、ホームの一部が崩れ落ち危険な状況にある。北海道遺産・近代化産業遺産として認定された、これらの地域資源を補修により、機能の回復と安全を確保する。
イザベラ・バードの道を辿る会 会長 金子 正美	平取町	バードが歩いた「札幌本道」の道標ネットワーク形成事業 イザベラ・バードの足取りを共通テーマに、北海道開拓のために日本初の馬車用道路としてつくられた「札幌本道」の有珠・室蘭周辺のルートを中心とする各地域の資源や特徴を道標として、体験ツアー、講演会等によるネットワーク形成事業を通じた啓発活動により地域の活性化を図る。